

2025年5月期 中間決算説明資料

2025年1月21日

株式会社 **サカタのタネ**



1. 2025年5月期 中間決算の概要	3~15
2. 2025年5月期 通期予想および配当政策	16~22
3. グローバルな成長に向けた取り組み	23~47
4. 2025年5月期 中間期 資料集	48~52

1. 2025年5月期 中間決算の概要

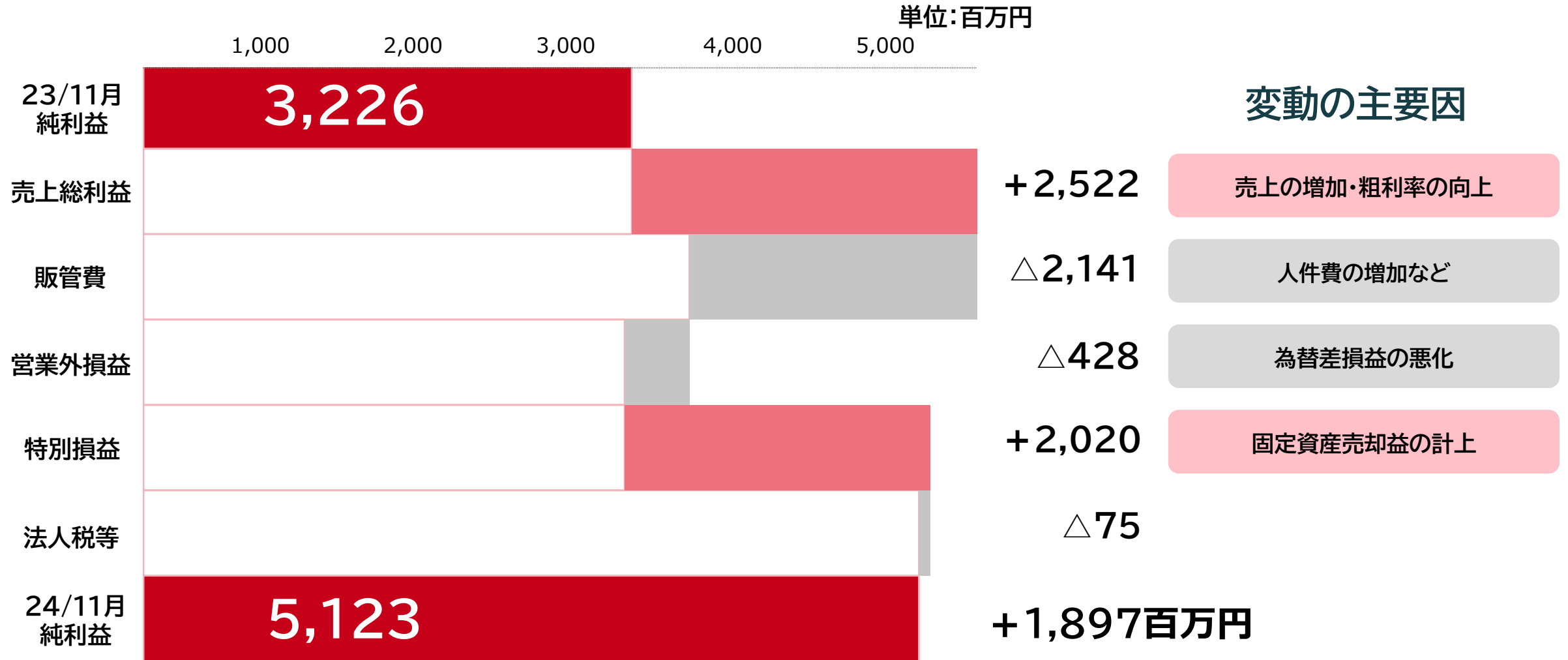
2025年5月期 中間期 業績概要(連結ベース)

単位:百万円

前期比で増収、当期純利益が大幅増

	23/11月	24/11月	増減額	増減率	24/7月公表 予想
売上高	40,872	42,325	1,452	3.6%	45,000(Δ2,674)
売上総利益	24,895	27,417	2,522	10.1%	-
売上総利益率(%)	60.9%	64.8%	-	-	-
研究開発費	5,011	5,135	123	2.5%	-
売上高比率(%)	12.6%	12.3%	-	-	-
その他販管費	14,591	16,609	2,017	13.8%	-
営業利益	5,292	5,672	380	7.2%	5,200(+472)
経常利益	5,698	5,650	Δ48	Δ0.8%	5,000(+650)
当期純利益	3,226	5,123	1,897	58.8%	3,500(+1,623)
海外子会社換算レート					
米ドルレート(円)	150	143	Δ7	為替影響 Δ619百万円	150(Δ7)
ユーロレート(円)	158	160	+2		160(Δ0)

固定資産売却益により大幅増益

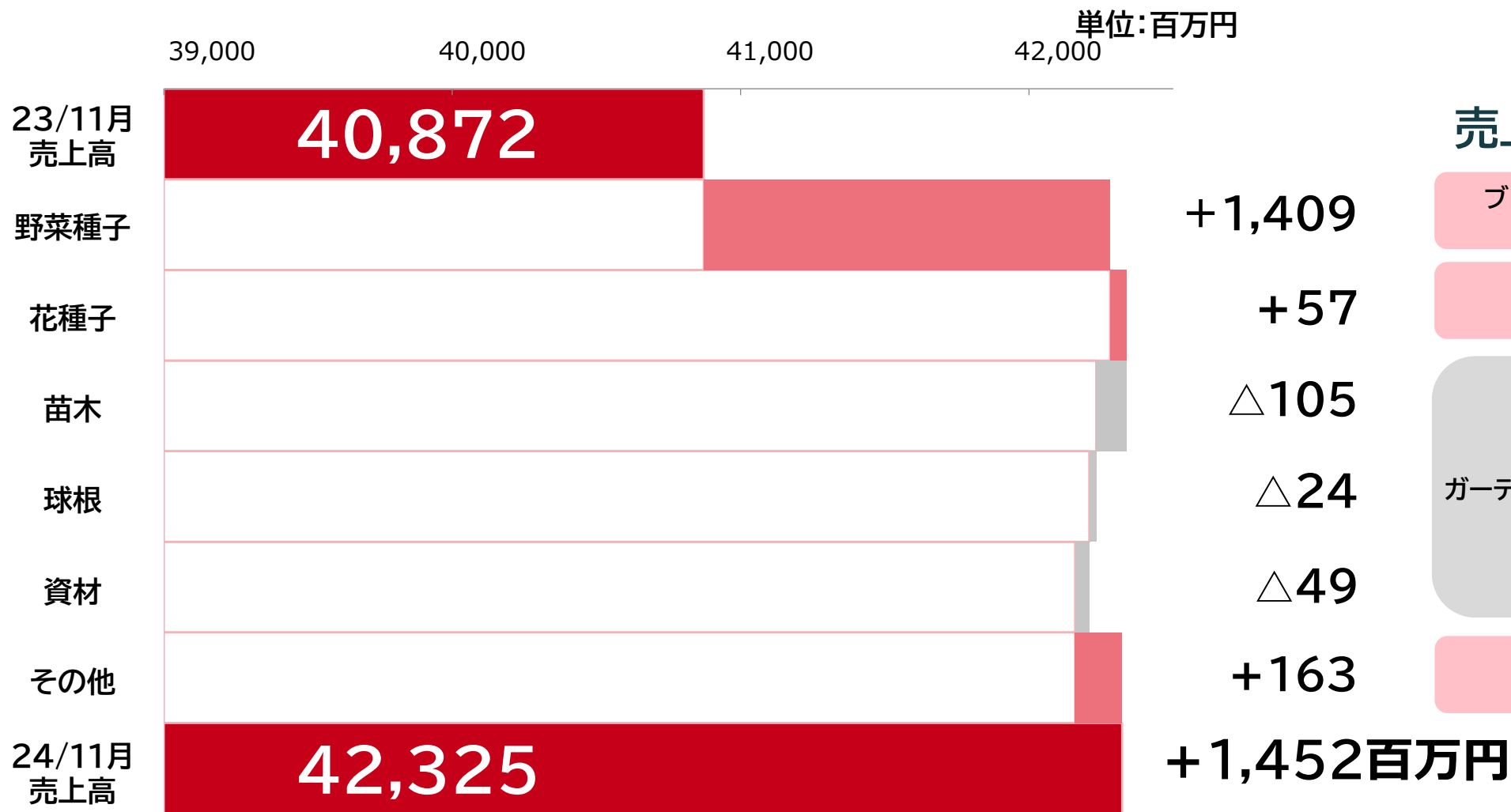


国内卸売は増収・減益、海外卸売は増収・増益

単位:百万円

	売上高				営業利益			
	23/11	24/11	増減	増減率	23/11	24/11	増減	増減率
国内卸売事業	5,981	6,138	157	2.6%	2,487	2,388	△99	△4.0%
海外卸売事業	31,018	32,364	1,346	4.3%	8,274	8,562	287	3.5%
小売事業	2,064	1,872	△192	△9.3%	△240	△247	△7	—
その他 (造園緑花事業等)	1,808	1,949	141	7.8%	80	117	36	45.4%
小計	40,872	42,325	1,452	3.6%	10,602	10,820	217	2.1%
消去	—	—	—	—	△5,310	△5,147	162	—
連結	40,872	42,325	1,452	3.6%	5,292	5,672	380	7.2%

野菜種子は大幅増収、花種子も増収



売上高変動の主要因

ブロッコリー、トマト、カボチャ、スイカなどが増加

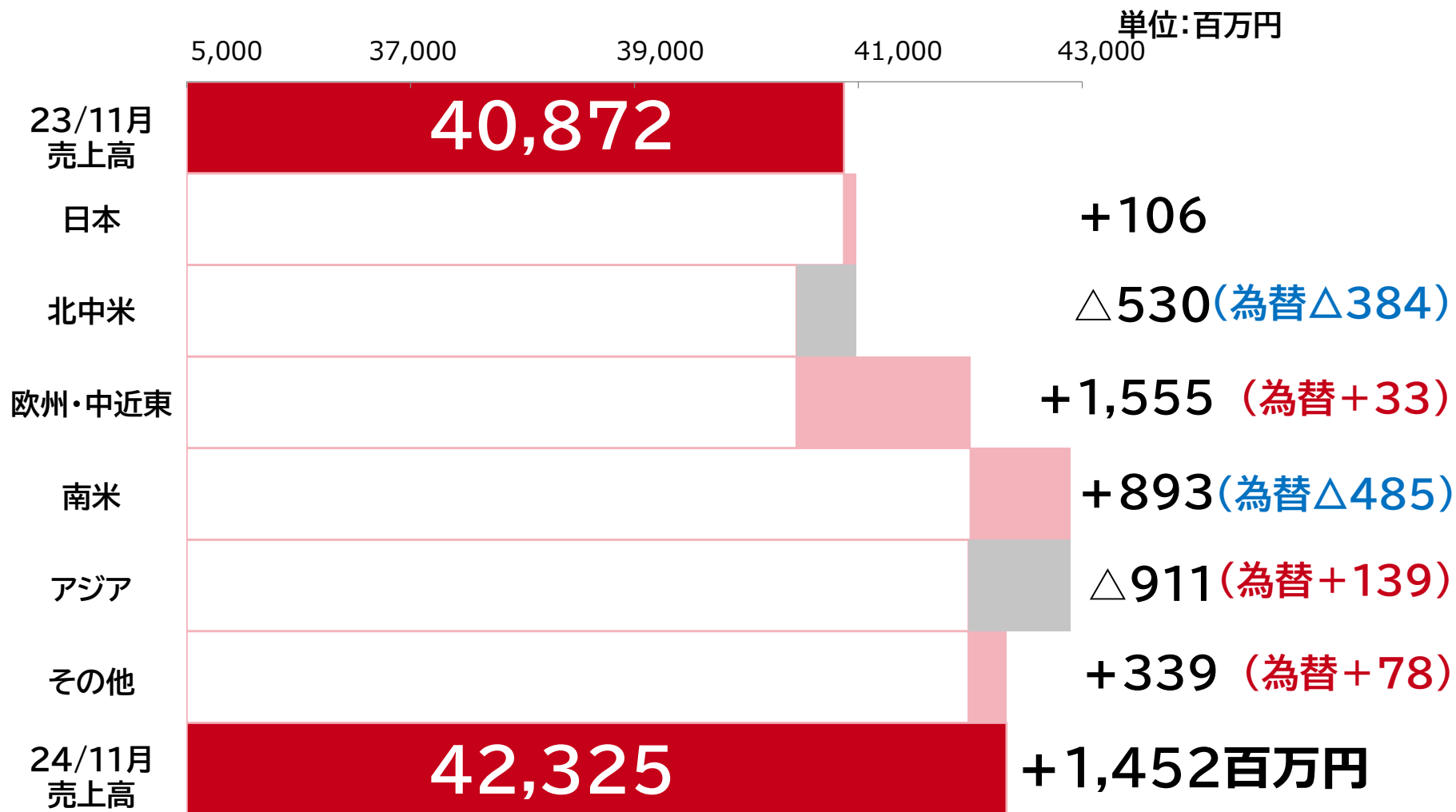
ヒマワリ、トルコギキョウ、パンジーなどが増加

ガーデンセンター横浜閉店による減少

造園緑花が増加

2025年5月期 中間期 地域別売上高

日本、欧州・中近東、南米が増収



売上高変動の主要因

野菜が増加

メキシコが天候不順で減少

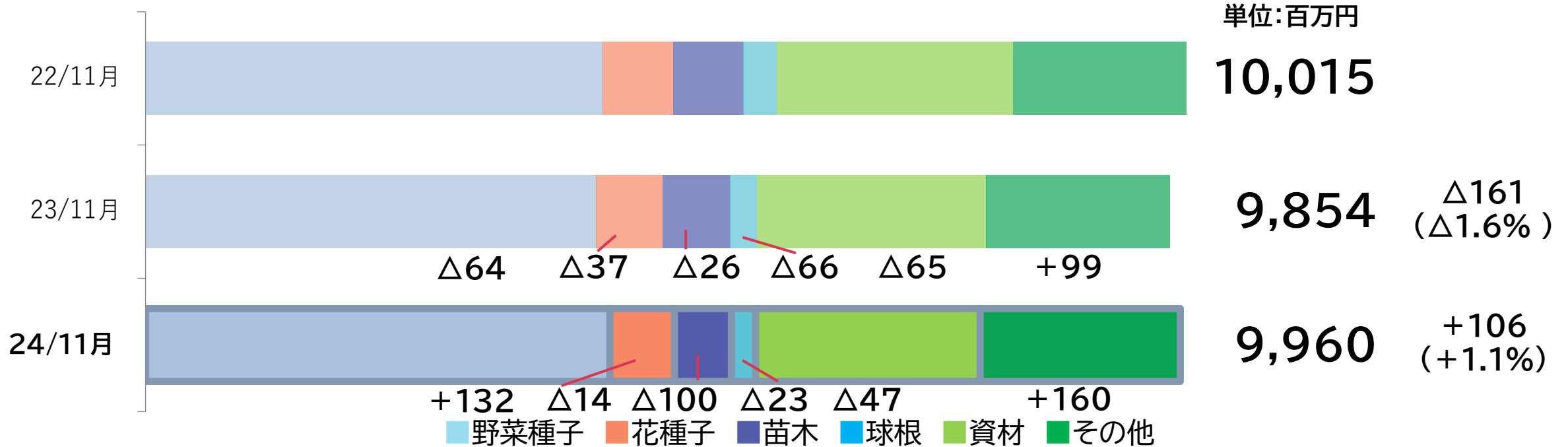
野菜、花ともに、
現地通貨ベースでも大幅な増収

野菜、花ともに、
現地通貨ベースでも大幅な増収
Isla買収による増収

中国市況の悪化でニンジンが大幅減

為替影響
△619百万円

【日本】野菜、造園緑花が増収



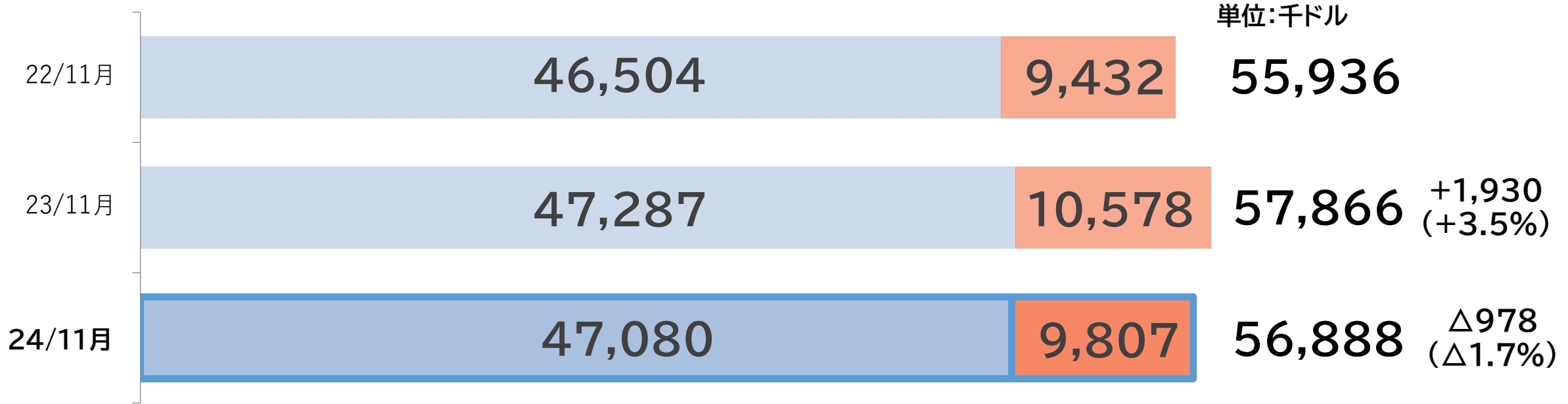
野菜種子・変動額上位品目(前期実績比)

ブロッコリー	+109
キャベツ	+37
トマト	+29
ネギ	Δ28

花種子・変動額上位品目(前期実績比)

ヒマワリ	Δ4
マリーゴールド	Δ3
パンジー	+2
ストック	Δ2

【北中米】 野菜、花ともに減収



■ 野菜種子 ■ 花種子-その他

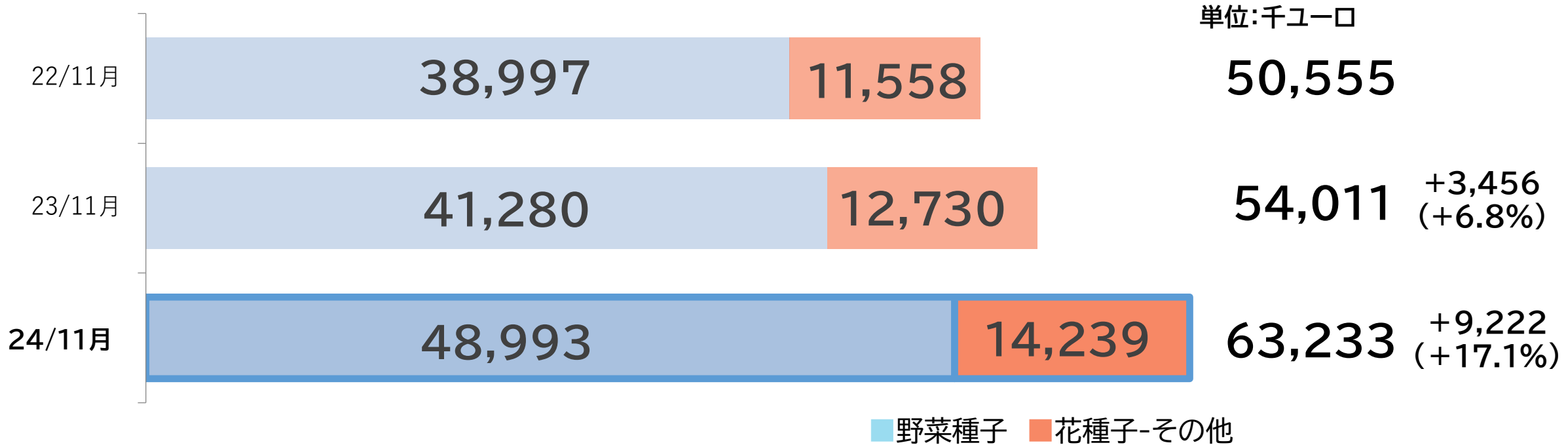
野菜種子・変動額上位品目(前期実績比)

スイカ	+1,532
ペッパー	△1,351
メロン	△537
トマト	+499

花種子・変動額上位品目(前期実績比)

カンパニュラ	△385
キンギョソウ	+195
パンジー	+185
ジニア	+175

【欧州・中近東】野菜、花ともに増収



野菜種子・変動額上位品目(前期実績比)

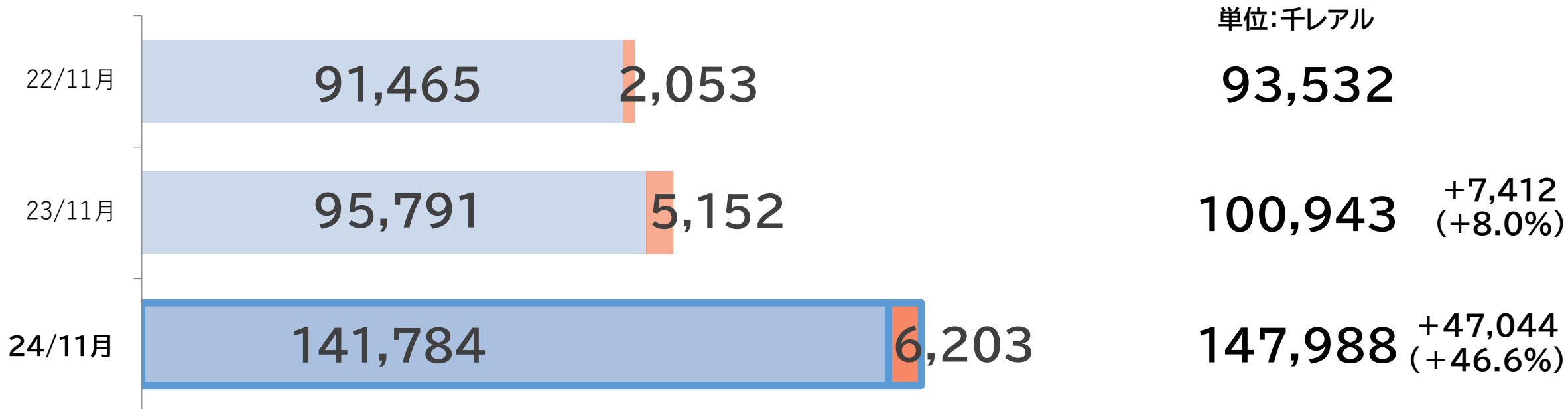
ブロッコリー	+2,211
トマト	+1,881
カボチャ	+981
カリフラワー	+780

花種子・変動額上位品目(前期実績比)

ヒマワリ	+553
カンパニュラ	△311
プリムラ	+128
トルコギキョウ	+99

2025年5月期 中間期 地域別売上高④

【南米】 野菜が大幅増、花も増収



■ 野菜種子 ■ 花種子-その他

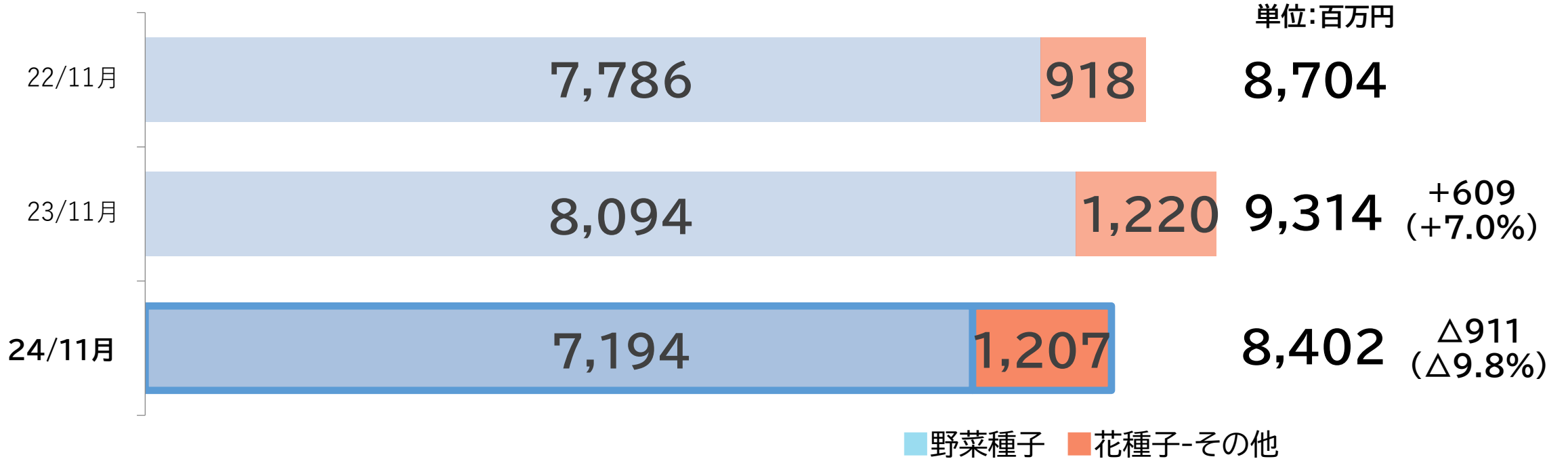
野菜種子・変動額上位品目(前期実績比)

メロン	+8,350
トマト	+5,298
ペッパー	+5,197
カボチャ	+5,127

花種子・変動額上位品目(前期実績比)

ヒマワリ	+630
トルコギキョウ	+86
ベゴニア	△81
キンギョソウ	+80

【アジア】野菜が減収



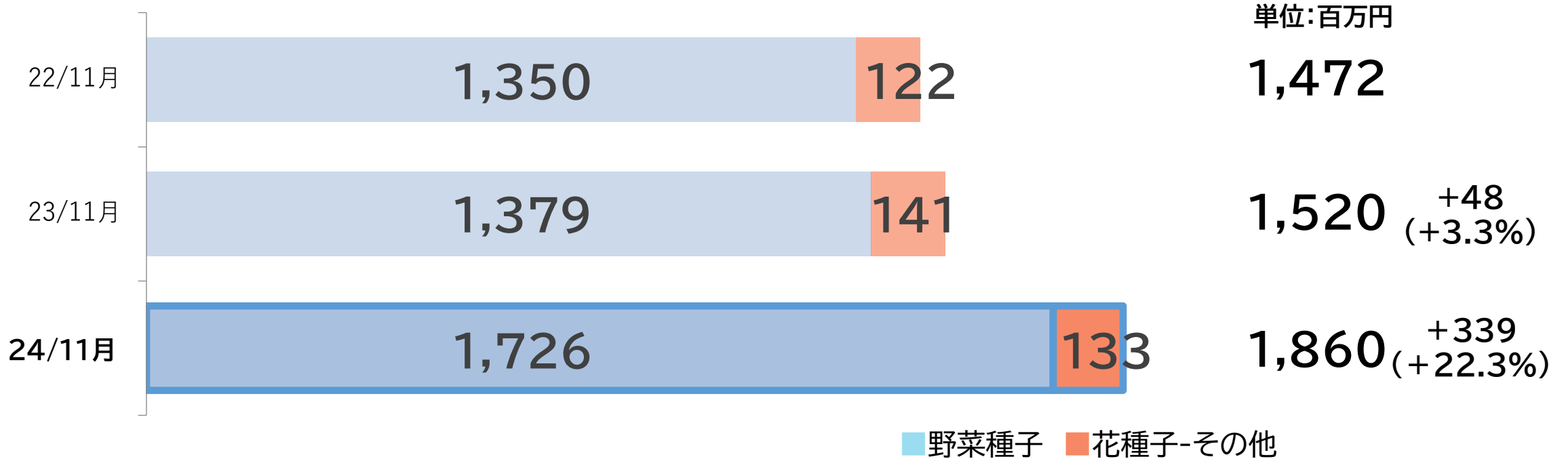
野菜種子・変動額上位品目(前期実績比)

ニンジン	△1,035
ネギ	+207
ビート	△76
カリフラワー	+66

花種子・変動額上位品目(前期実績比)

トルコギキョウ	+41
マリーゴールド	△31
ヒマワリ	△16
パンジー	+14

【その他(アフリカ・オセアニア)】 野菜種子が増加



野菜種子・変動額上位品目(前期実績比)

ブロッコリー	+190
カボチャ	+89
キャベツ	+36
メロン	△17

2025年5月期 中間期 主な販管費の状況

人件費、業務委託費、研究開発費などが増加

単位:百万円
(内訳は、本社および主要子会社の所在地ベース)

	販管費計	人件費	旅費交通費	修繕費	業務委託費	減価償却費	試験研究費 (研究開発費※)
2024年11月 実績	21,744	11,592	855	827	1,233	1,690	695(5,135)
2023年11月 実績	19,603	10,412	830	774	1,051	1,603	651(5,011)
前期比増減	2,141	1,179	24	53	181	86	43(123)
内訳 うち為替変動による影響額	△506	△228	△13	△16	△25	△25	△33(△110)
日本	272	136	3	△49	131	△34	10(72)
北中米	432	396	△1	13	26	22	△12(12)
欧州・中近東	1,153	481	18	19	△12	46	47(16)
南米	597	140	17	70	30	54	38(34)
アジア	△39	22	△8	1	4	△12	△31(△23)
その他+連結調整	△273	2	△4	△1	1	10	△9(11)

※ 研究開発費は、研究活動に関わる経費の合計としており、人件費と減価償却費の一部が重複した数字となっております

2. 2025年5月期 通期予想および配当政策

当期純利益を上方修正

単位:百万円

	23/5月期	24/5月期	予想	増減額	増減率
売上高	77,263	88,677	93,500	4,823	5.4%
売上総利益	47,519	53,972	58,000	4,028	7.5%
売上総利益率(%)	61.5%	60.9%	62.0%	-	-
研究開発費	9,069	10,396	11,000	604	5.8%
売上高比率(%)	11.7%	11.7%	11.8%	-	-
その他販管費	27,532	33,081	36,000	2,919	8.8%
営業利益	10,918	10,495	11,000	505	4.8%
経常利益	12,304	11,124	11,000	△124	△1.1%
当期純利益	9,489	16,162	9,000	△ 7,162	△44.3%

海外子会社換算レート※1

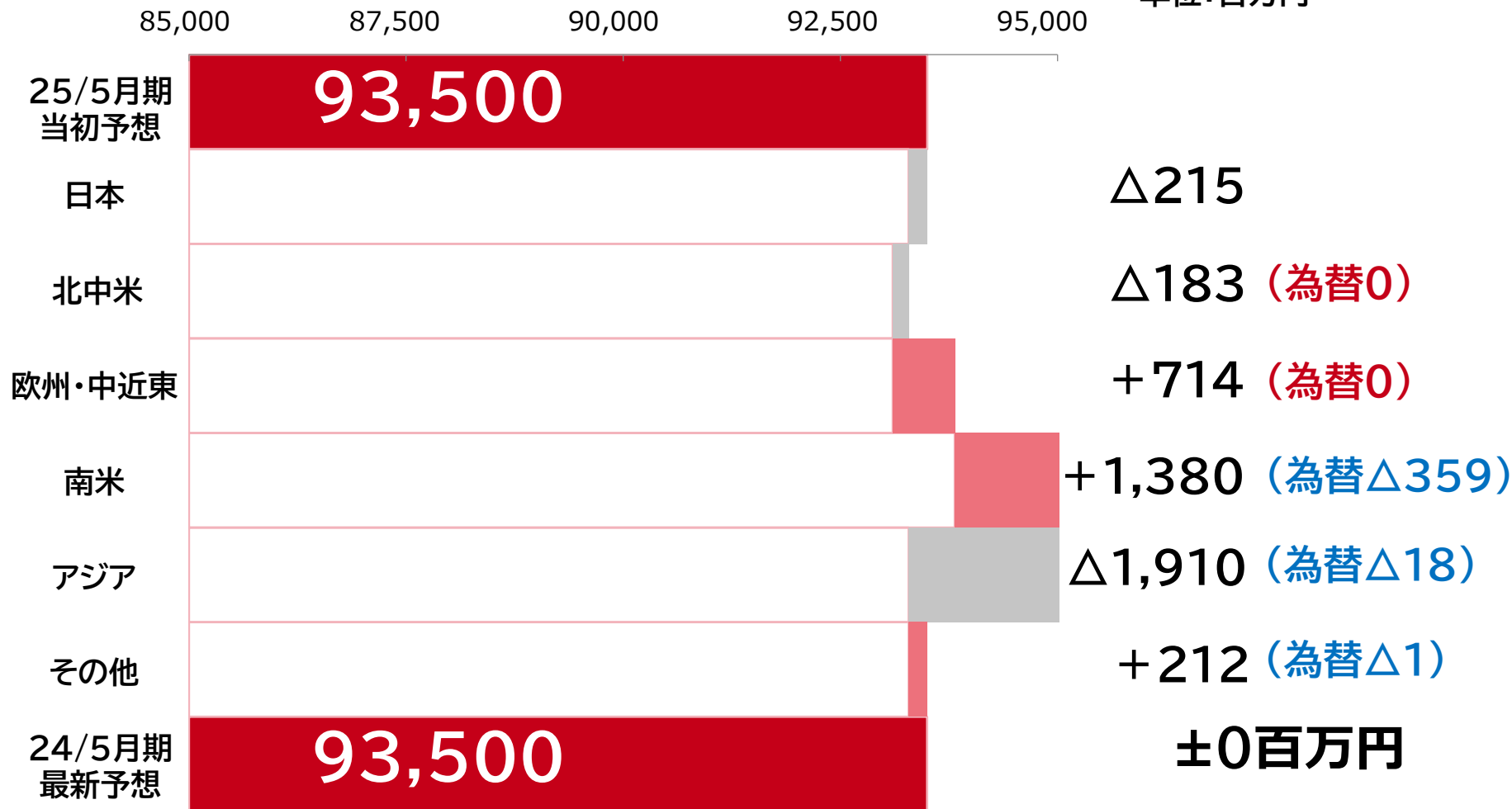
	23/5月期	24/5月期	予想	為替の感応度の試算※2(百万円)	
米ドルレート(円)	134	151	150	米ドル	65
ユーロレート(円)	146	163	160	ユーロ	16

※1 海外子会社(3月期)換算レート ※2 1円の為替変動による今年度の営業利益への影響額試算

2025年5月期 通期予想 地域別売上高【当初予想比】

地域間の入り繰りあるもトータルの売上高は不変

単位:百万円



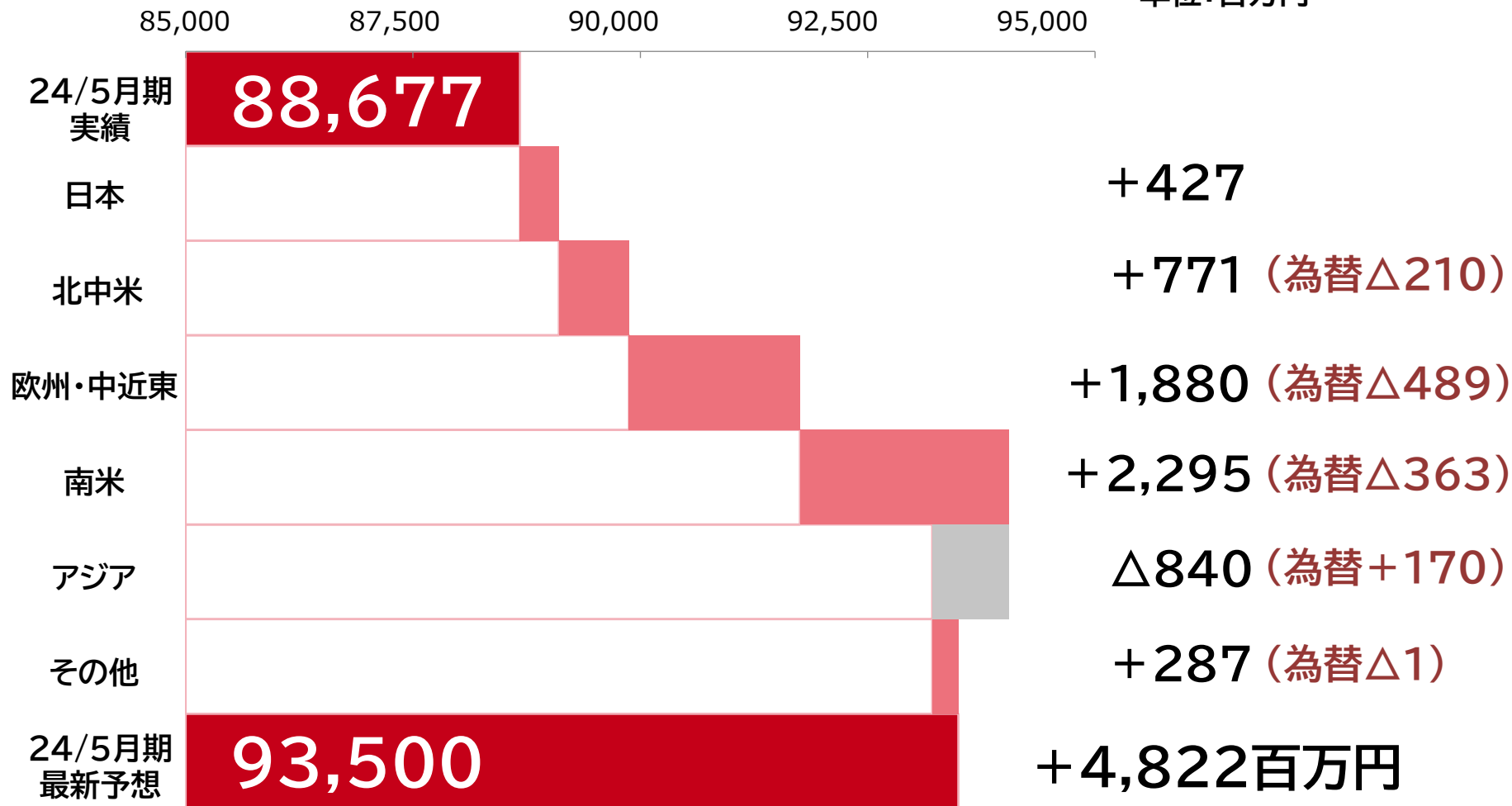
売上高変動の主要因

- 小売のマーケットが全般的に低調
- 下期の回復を見込むも、期初予想には若干届かず
- 野菜、花ともに増加
- 野菜が大幅増、花も増加
- 中国・インドが低調
- 為替影響 △378百万円

2025年5月期 通期予想 地域別売上高【前期実績比】

アジアを除いた全地域で、前期比売上増を見込む

単位:百万円



売上高変動の主要因

野菜、花ともに微増

野菜が増加、花が微増

野菜、花が増加

野菜が大幅増

野菜、花ともに減少

為替影響
Δ895百万円

2025年5月期 通期予想 主な販管費の状況

期初予想から増加

単位:百万円
(内訳は、本社および主要子会社の所在地ベース)

		当初予想比		前期実績比	
2025年5月 最新予想		47,000		47,000	
2025年5月当初予想/2024年5月実績		46,800		43,477	
増 減		200 (Δ189)		3,522 (Δ615)	
内 訳	日本	Δ157	(0)	826	(0)
	北中米	Δ55	(0)	1,197	(Δ113)
	欧州・中近東	289	(0)	1,355	(Δ312)
	南米	250	(Δ182)	774	(Δ182)
	アジア	Δ145	(Δ6)	160	(Δ6)
	その他+連結調整	17	(Δ0)	Δ792	(Δ2)

()内の数字は為替の影響額

中間配当は30円を決議、期末配当は35円を予想

当社は、株主への利益還元を経営の重要課題と考え、長期安定方針の下、安定的、継続的に還元を強化していくことを基本方針としております。

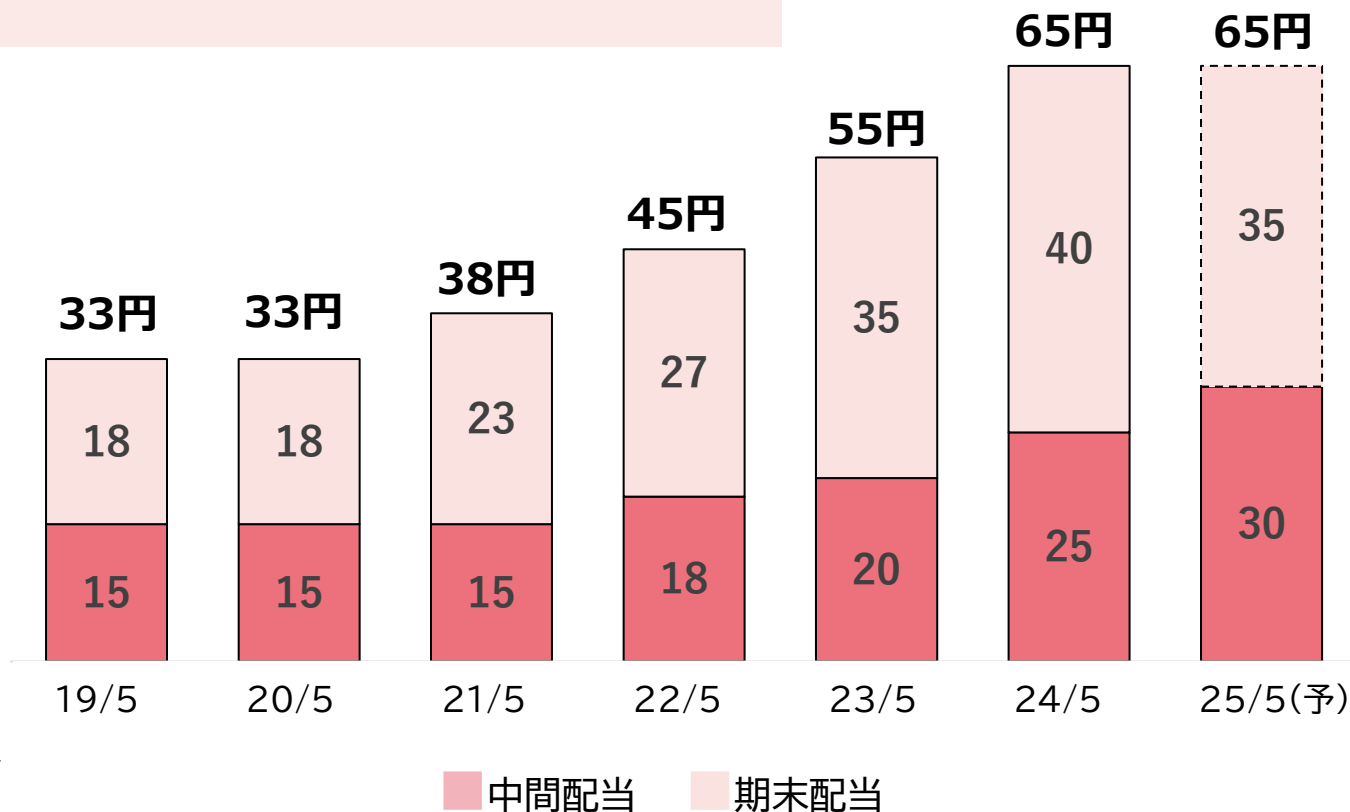
①「中間配当」1株あたり30円

(前期比+5円)を決議

②「期末配当」1株あたり35円

(前期比△5円)を予定

いずれも従来の公表通り
年間配当額は、前期と同じ65円を予定



株主還元の充実および資本効率の向上と 経営環境に応じた機動的な資本政策の遂行のため、 自己株式を取得

【 取得の内容 】

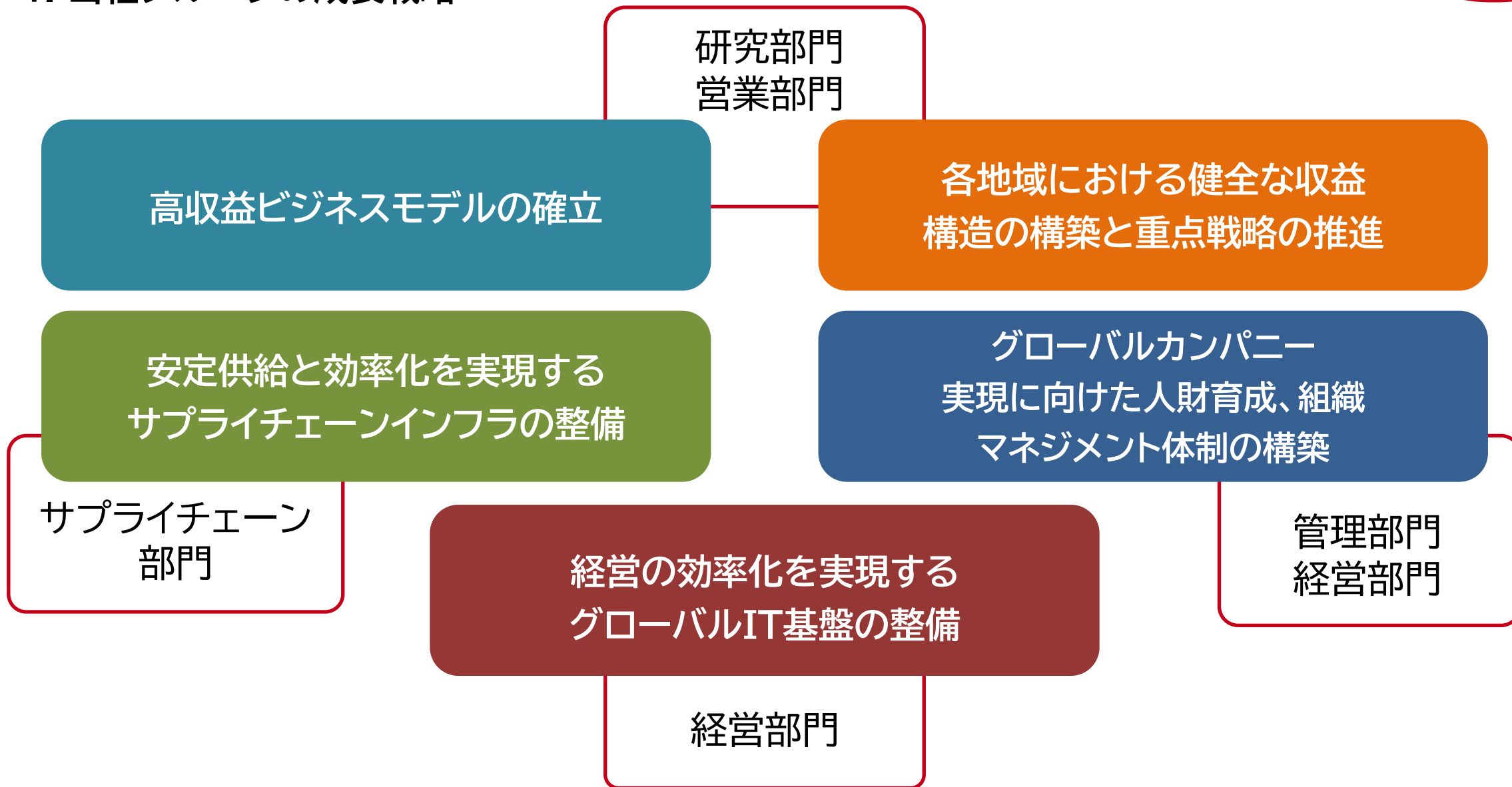
- (1)取得株式数 当社普通株式 600,200株
- (2)取得価格の総額 2,151,717,000円
- (3)取得日 2025年1月20日

(ご参考)

取得価格の総額は、今期の親会社株主に帰属する純利益予想90億円に対し、24%相当

3. グローバルな成長に向けた取り組み 北中米地域戦略

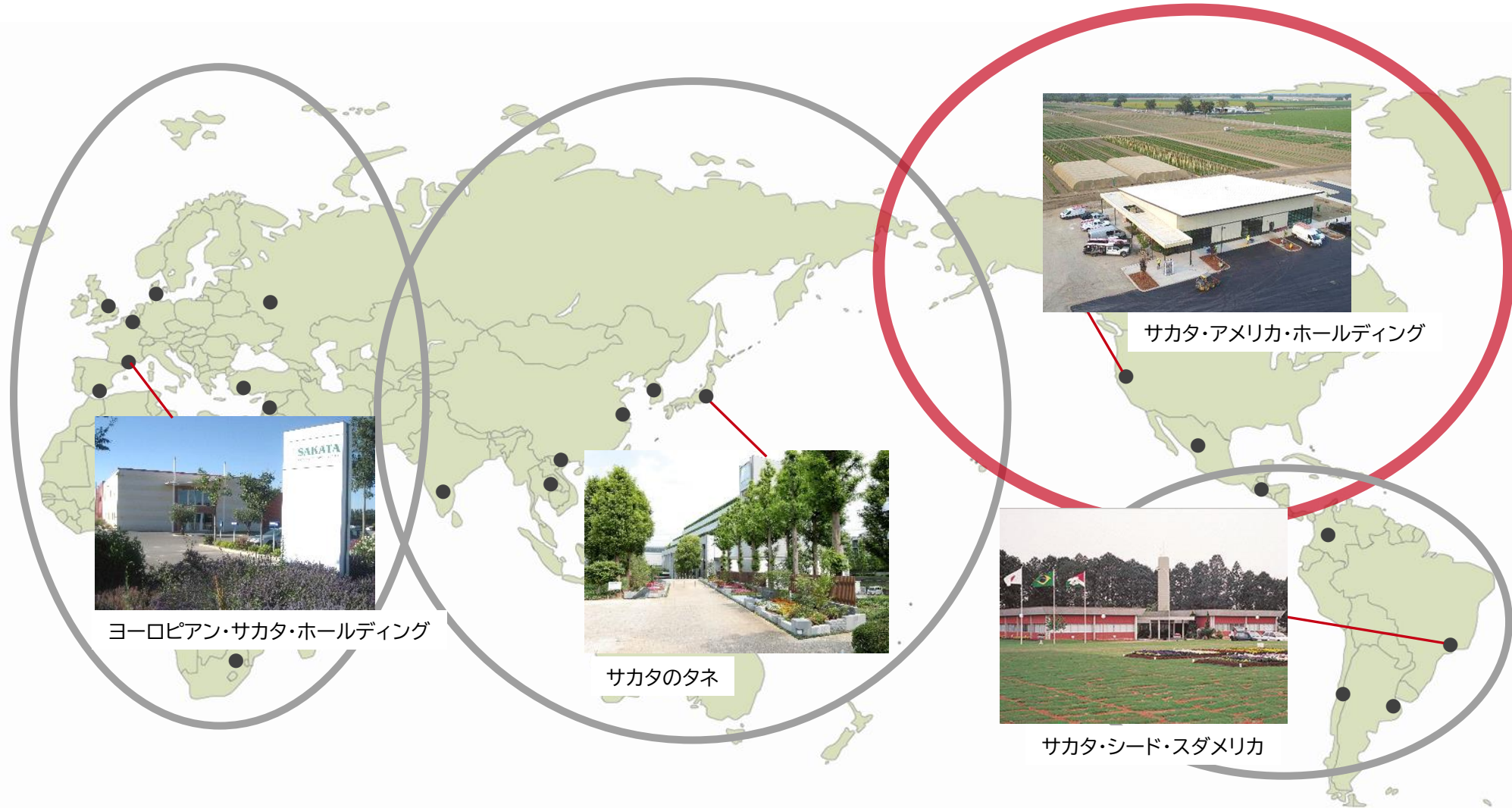
1. 当社グループの成長戦略



各地域における健全な収益構造の構築と重点戦略の推進

成長市場におけるシェア拡大と
成熟市場における高収益モデルを確立し
健全な収益構造を確立

1. 当社グループの成長戦略



北中米地域の統括会社＝サカタ・アメリカ・ホールディング

2. 北中米地域の特性と市場

北中米地域の当社の拠点



【事業会社】

サカタ・シード・アメリカ

研究・生産・販売とフルラインの事業体制

サカタ・シード・メキシコ

野菜種子の販売、野菜の品種開発

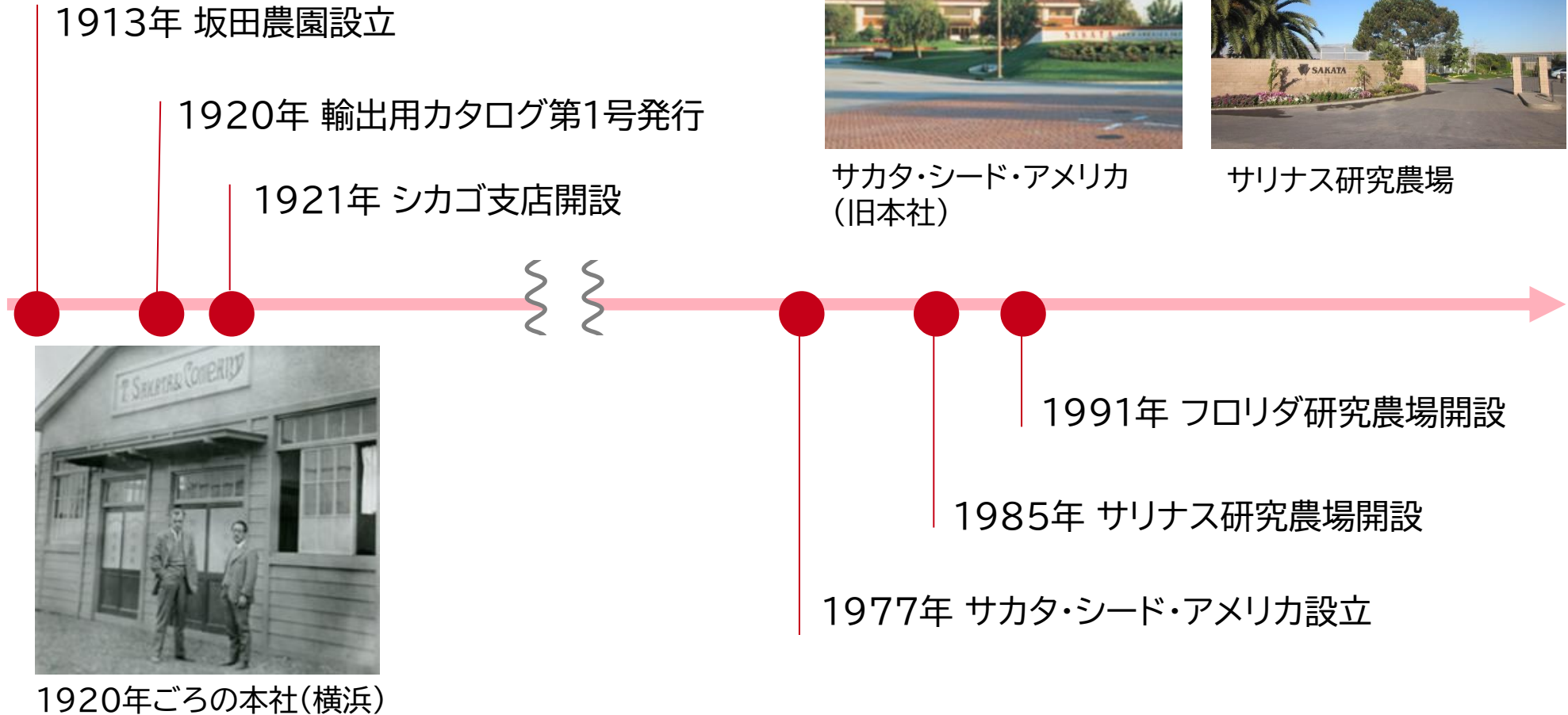
サカタ・シード・グアテマラ

野菜種子の販売

北中米地域 = パナマ以北で事業を展開、花は南米もカバー

2. 北中米地域の特性と市場

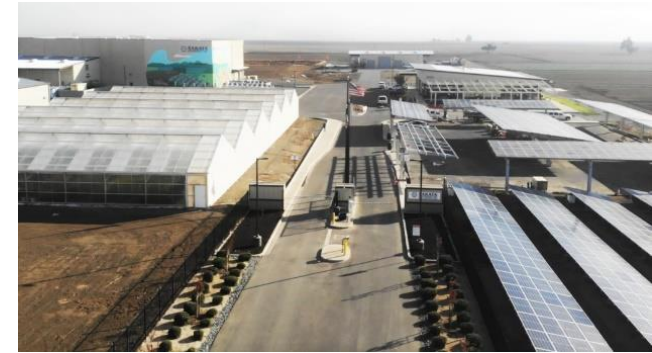
北中米地域での当社の歴史(1)



花種子の販売から始まり、種子生産、そして研究開発と総合的に発展

2. 北中米地域の特性と市場

北中米地域での当社の歴史(2)



ウッドランド イノベーションセンター



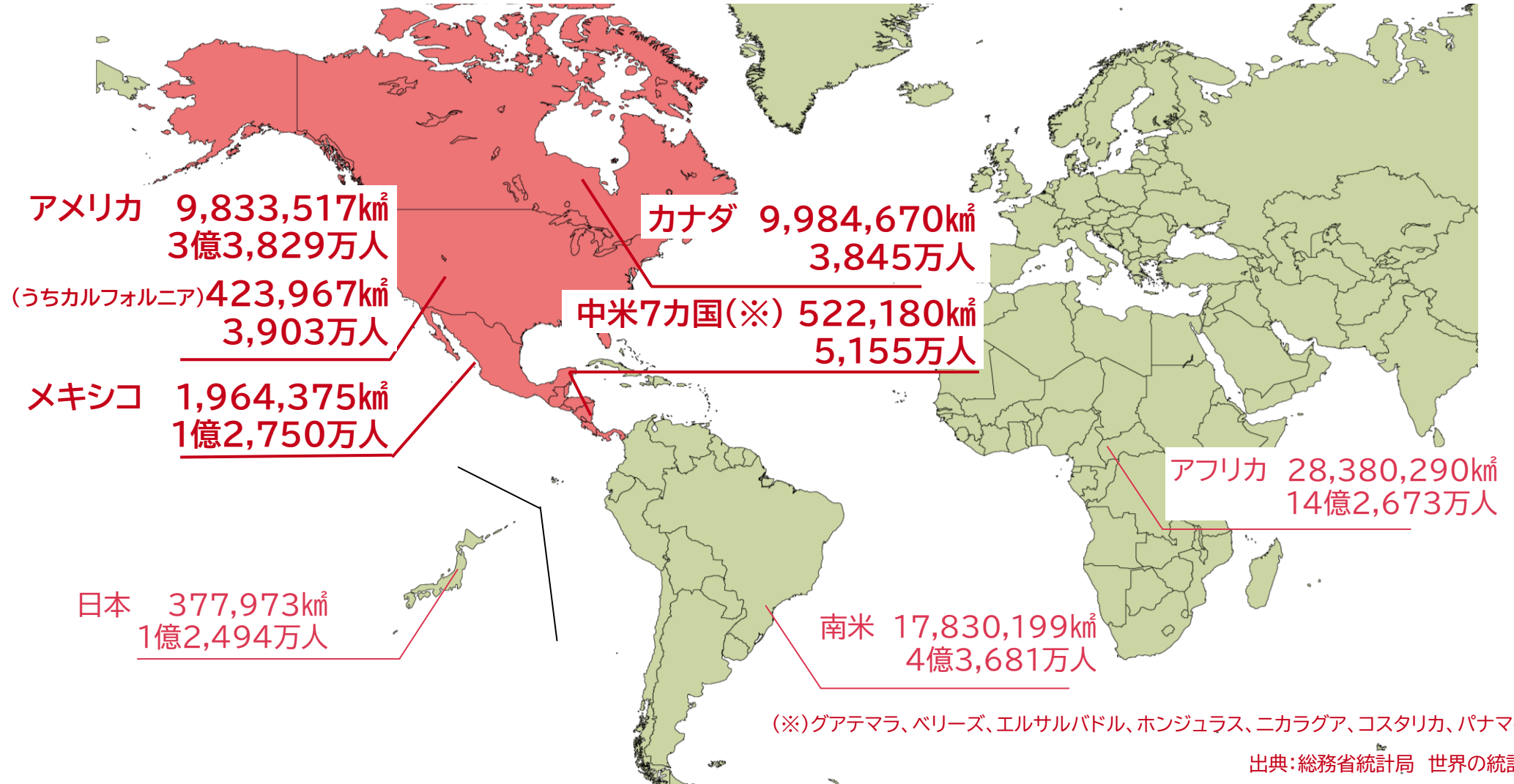
クリアカン イノベーションセンター

中米に子会社、さらに研究拠点を設置し、研究と営業を強化

2. 北中米地域の特性と市場

北中米地域の面積と人口

合計 面積 22,728,405km² 人口 6億160万人

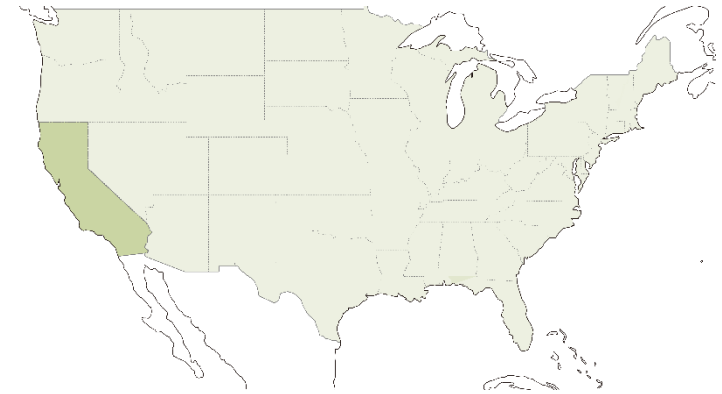


2. 北中米地域の特性と市場

サカタグループ 北中米地域の本拠地＝カリフォルニアの概要

名目GDP(2023年)

カリフォルニア州	3兆8,900億USD(全米第1位)
日本	4兆2,910億USD(世界第4位)
インド	3兆5,500億USD(世界第5位)



- 地中海性気候に似た温暖な気候
- 肥沃で広大な盆地を中心とした一大農業地帯を形成
- 農業は大規模な灌漑技術により支えられている
- 農産物販売額は511億ドル、過去50年以上にわたり全米1位
(在サンフランシスコ日本国総領事館HPより抜粋)

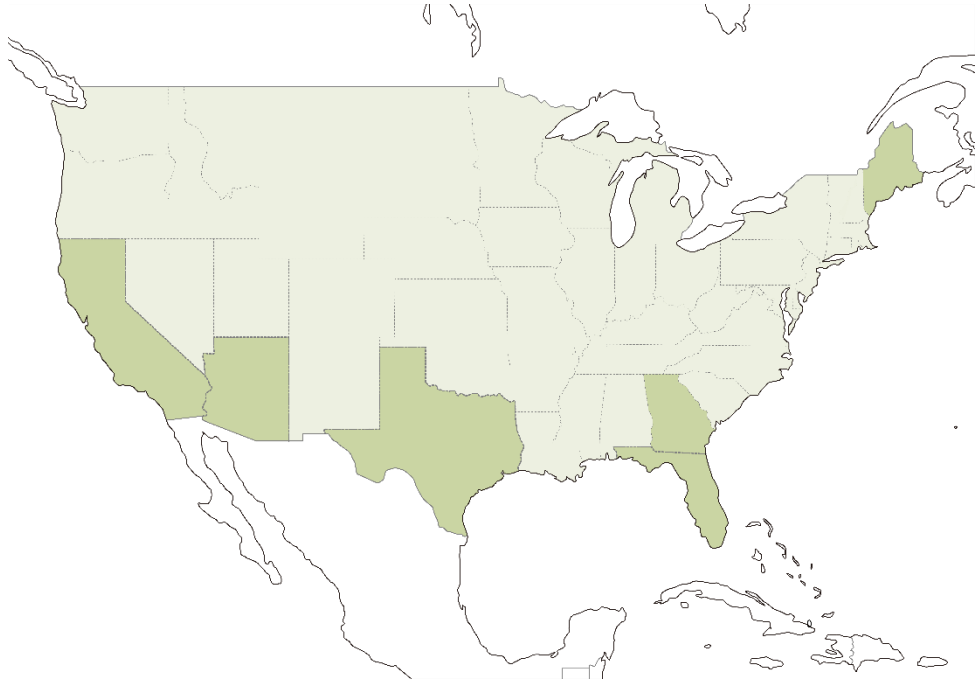
全米を代表する農業地域。野菜の大産地であり、種子生産にも好適

2. 北中米地域の特性と市場

北中米地域の野菜生産 主な野菜産地

【アメリカ】

ブロッコリー、トマト、スイートペッパー、
スイカ、メロン、レタス



【メキシコ】

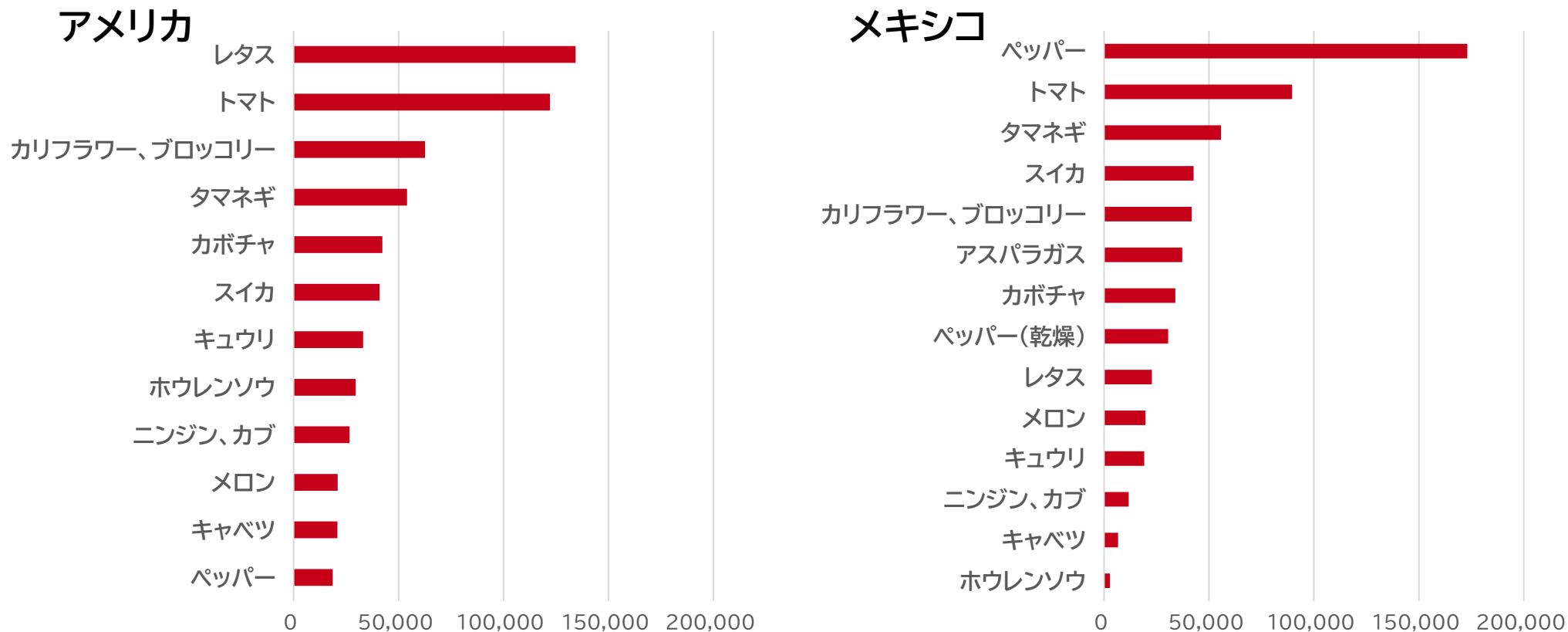
ブロッコリー、トマト、スイートペッパー、
スイカ、メロン、ホットペッパー



2. 北中米地域の特性と市場

北中米地域の野菜生産 品目別生産面積

野菜生産面積ランキング(ジャガイモ、穀類、豆类、スイートコーンを除く)



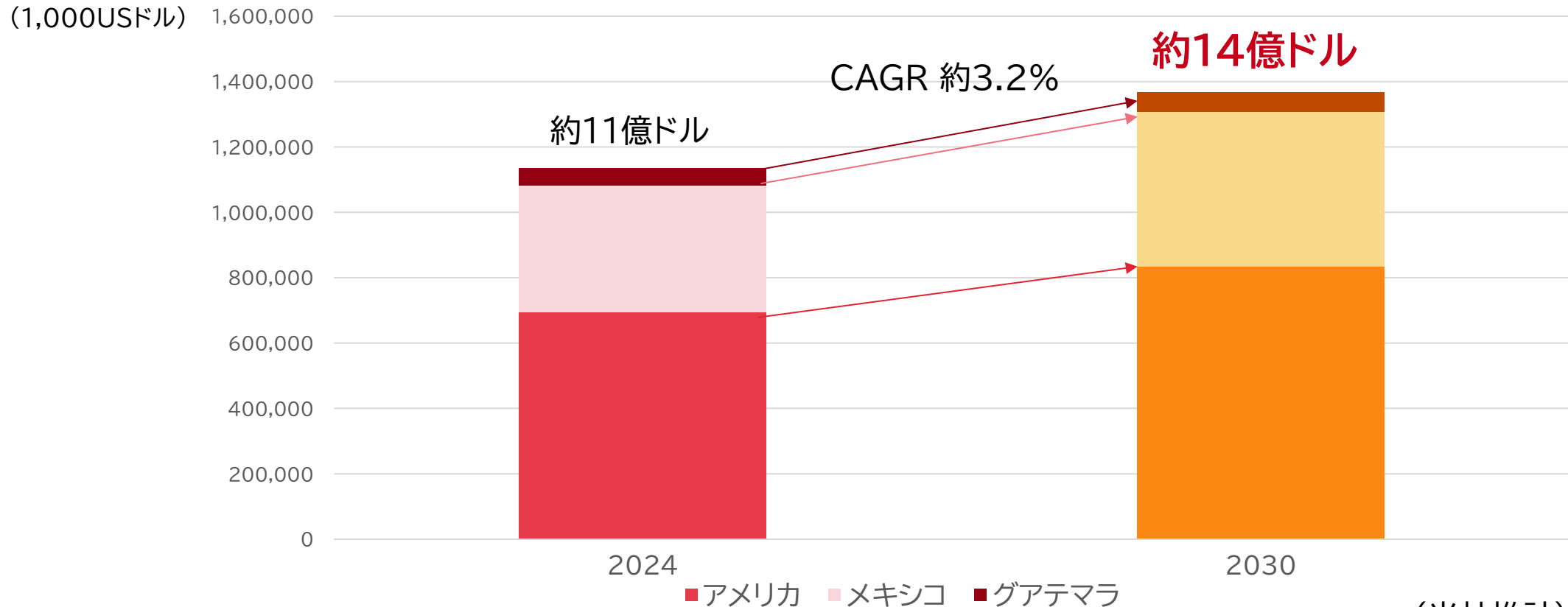
国際連合食糧農業機関(FAO) 2023年 単位:ha

アメリカはレタス、メキシコはパセリが1位

2. 北中米地域の特性と市場

北中米地域の野菜種子市場と成長の見通し

北中米地域の野菜種子市場 卸売市場規模(ジャガイモ、穀類、豆類、スイートコーンを除く)

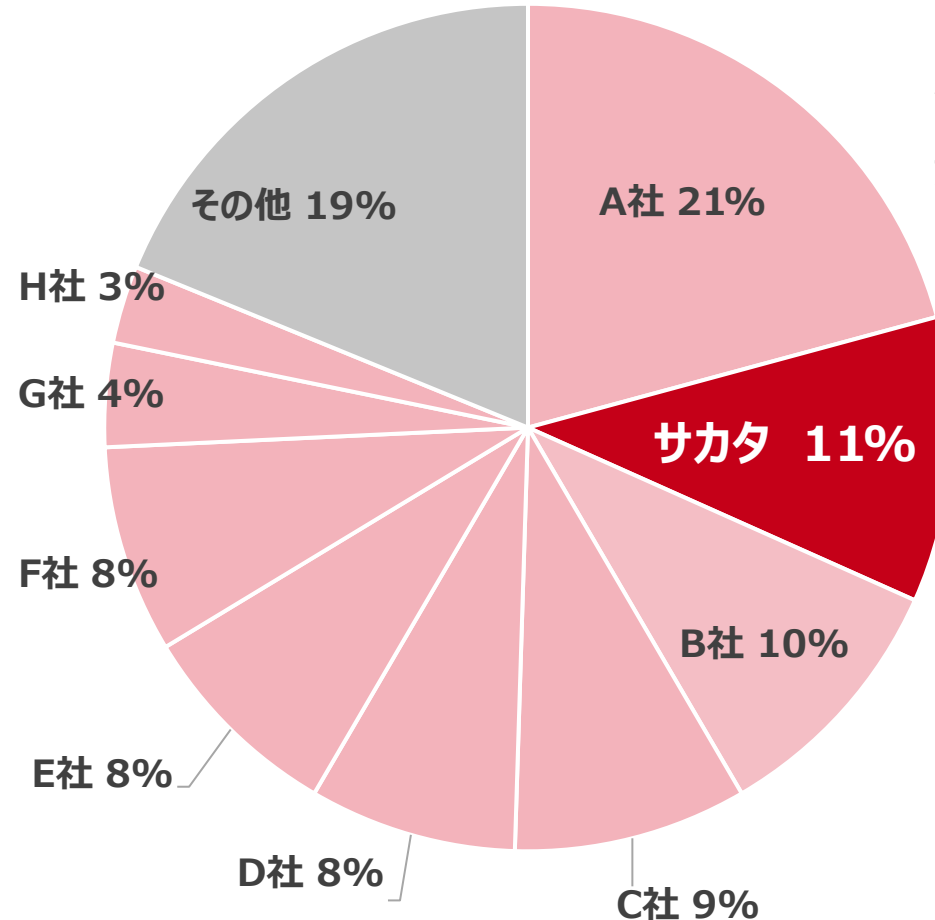


(当社推計)

今後も順調な市場成長の見通し

2. 北中米地域の特性と市場

北中米地域の野菜種子市場と当社のポジション



北中米地域の野菜種子市場
卸売市場規模と当社シェア率
(ジャガイモ、穀類、豆類、スイートコーンを除く)

市場規模(2024年)
約11億ドル
(当社推計)

現在のシェア2位、成長予測市場で好位置につける

2. 北中米地域の特性と市場

花ビジネスの歴史と北中米地域の市場特性(1)

- ・当社の北中米ビジネスの先駆けは花種子
- ・世界初の完全八重咲きペチュニア
「F₁ビクトリアス ミックス」でAAS銀賞受賞
「金より高い種子」と報じられ人気を博した



園芸業界の権威ある品評会AAS(オール アメリカ セレクションズ)を多数受賞



ジニア「プロフェュージョン
レッドイエローバイカラー」



ベゴニア「バイキング
エクスプローラー
ローズ オン グリーン」

- 2018年 ジプソフィラ「ジプシー
ホワイト インブルーブド」
- 2019年 ベゴニア「バイキング
レッド オン チョコレート」
- 2021年 ジニア「プロフェュージョン
レッドイエローバイカラー」
- 2022年 ベゴニア「バイキング
エクスプローラー ローズ オン グリーン」



長い伝統、数々の画期的な品種を作出し存在感を発揮

2. 北中米地域の特性と市場

花ビジネスの歴史と北中米地域の市場特性②

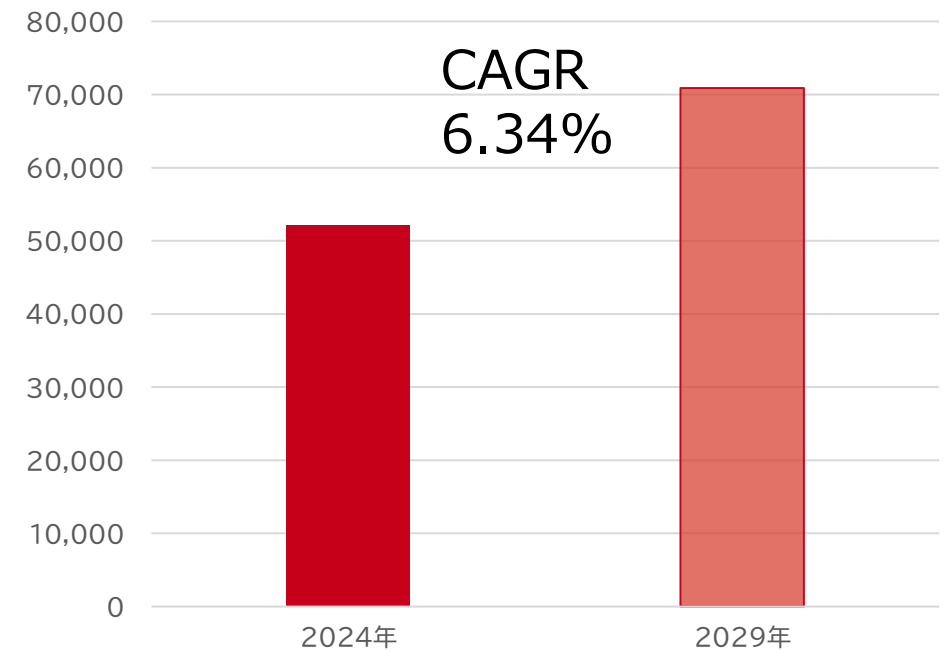
- ・ アメリカ国内の消費は拡大傾向、一大消費地
- ・ 世界的な切り花の大産地であるエクアドル、コロンビアに近接
- ・ メキシコも宗教的理由と家族の伝統により、花を利用する文化がある



一大消費地であり、世界的産地に近く、花ビジネスも大きな可能性

米国 花卉園芸市場規模

(百万USD)



出展：Mordor Intelligence

3. 当社の北中米地域戦略

①品種開発の強化、特に果菜類への注力 葉菜類に加えて、果菜類のシェアが拡大



STM2255

食味が非常によく、保存性がよい。収量性が高く、幅広い地域や作型に適応する



PATHFINDER

高い耐病性と優れた生育特性で、幅広い地域に適応する。果肉が厚く、保存性がよいので輸出に好適



NITRO S10

高い耐病性と、大きさのそろいがよく、締まった果実が特徴。熟すと赤くなる



EL CAPITAN

小型で収量性が高く、美しい皮模様。カット市場向きの深紅で固く日持ちのよい果肉で、風味がよい

サカタ・シード・アメリカが現地で育種した品種が売上をけん引、開発力の強化

3. 当社の北中米地域戦略

②花市場での積極的な拡販

アメリカは花の一大消費地、コロンビアなど切り花の世界的大産地に近い



ヒマワリ
「ビンセント」
 生育が日長に左右されないため周年栽培が可能。丸弁で上向きに咲く。花粉が出ないので鑑賞期間が長い



カンパニュラ
「チャンピオンⅡ」
 均一性が高く、花が大きい。開花までの生育期間が短く、生産効率が高い。花が上向きで輸送に好適



「サンパチエンス」
 生育旺盛で、早く、大きく育つ。鮮やかな色合いが特徴。鉢植え、コンテナ、大規模植栽に好適



「スーパーカル」
 ペチュニアとカリブラコアの属間雑種で耐寒性、耐暑性があり、ペチュニアよりも雨に強く、降雨後も早く復元する

品種力を軸に切り花、花壇苗の両面で展開

3. 当社の北中米地域戦略

③人財活用と強化

1.ベテランの活躍とノウハウの蓄積を可能にする企業文化

勤続年数が20年を超えるベテランが多い・・・働きがいのある職場が経験ある人財を育てる



2.「Sakata Gives」

従業員の地域社会への貢献活動を支援する取り組み
小学校に園芸用品や種子を提供する「花育」「種育」のほか、
当社の花を地元のNPOに寄付するなど、幅広く展開



3. 当社の北中米地域戦略

④成長市場(メキシコ)での研究・開発への投資



クリアカン イノベーションセンター
2022年設立。約14ha。カリフォルニア湾に近く、ナス科などの果菜類の大産地にある



ユクアロ研究農場

2022年設立。約5.3ha。約1,500mの高地にあり、果菜類だけでなく、冷涼な気候を好む葉根菜類の産地に拠点を構える

3. 当社の北中米地域戦略

⑤ サプライチェーンにおけるグループ全体支援



野菜: ブロッコリーなどアブラナ科野菜の種子生産の北半球における最重要拠点

花き: 特に切り花用ヒマワリの種子生産の主要拠点

種子生産に適した気候、当社グループ全体にとっての重要拠点

3. 当社の北中米地域戦略

⑥資産の再配分と最適化

2005年 クオリベジ・シード・プロダクション社買収
(スイカ、パンプキン)

2008年 リード社から
キャベツ事業を取得

2020年 バンガード社からレタス事業を取得

2020年 ダンジガー社からベルペッパー事業を取得

2024年 ウッドランド イノベーション
センター完成と本社機能移転
各機能を1カ所に集約することによる
部門間の円滑な交流と効率化、戦略推進へ

2024年 日本社を売却

2021年 ニンジン事業を売却

2020年 遊休不動産を売却

2018年 タマネギ事業を売却



ウッドランド イノベーションセンター

事業ポートフォリオを精査、資産の入れ替え

3. 当社の北中米地域戦略

⑦ 本社機能の移転、新時代への対応



ウッドランド イノベーションセンター

- カリフォルニア州モーガンヒル市から移転
- 研究、サプライチェーン、営業、本社機能を集約。情報共有の迅速化、業務効率の向上へ
- 果菜類の主要産地。果菜類の研究開発に優位性
- 農業分野で全米一といわれるカリフォルニア大学デービス校に近く産学連携へ
- 全エネルギーを再生可能エネルギーで供給。持続可能性に配慮した新世代の拠点

新本社移転のセレモニー 2024年9月



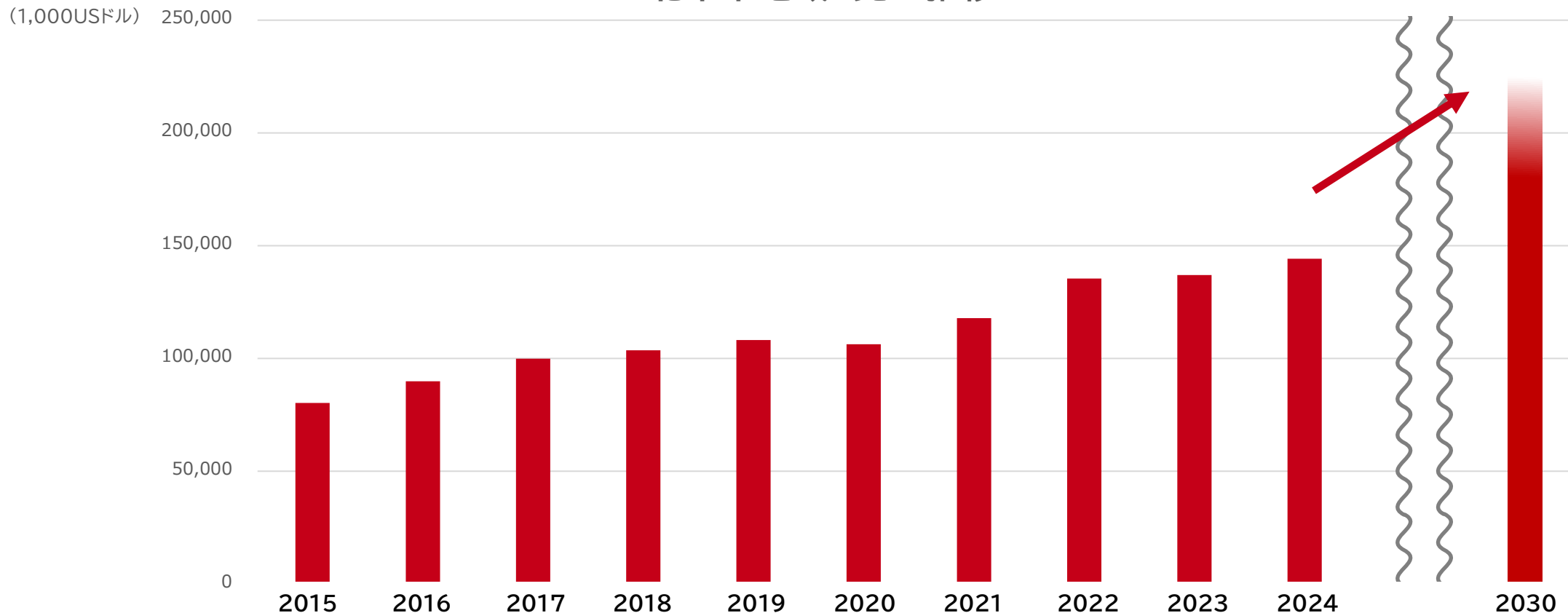
最先端設備の新世代の拠点、北中米地域戦略推進の最重要施策



3. 当社の北中米地域戦略

今後の成長予想

北中米地域 売上推移



2030年に売上1.5倍、野菜、花ともに市場シェア15%を目指す

4. 2027年国際園芸博覧会 横浜で開催

大阪花博(1990年)以来、日本国内で37年ぶり
最上位(A1)クラスの国際園芸博に当社も出展内定

- 【名称】2027年国際園芸博覧会
略称:GREEN×EXPO 2027
【テーマ】幸せを創る明日の風景
【開催場所】神奈川県横浜市
【開催期間】2027年3月19日(金)~9月26日(日)
【博覧会区域】約100ha(内、会場区域80ha)
【クラス】A1(最上位)クラス(AIPH承認+BIE認定)
【参加者数】1500万人
◆当社とサカタのタネ グリーンサービスが出展内定
◆展示とコンペティション参加に向けて準備を開始



©Expo
2027

2027年国際園芸博覧会
公式マスコットキャラクター
トウンクトウンク

地域貢献と業界活性化のため、当社も出展に向けて準備を開始

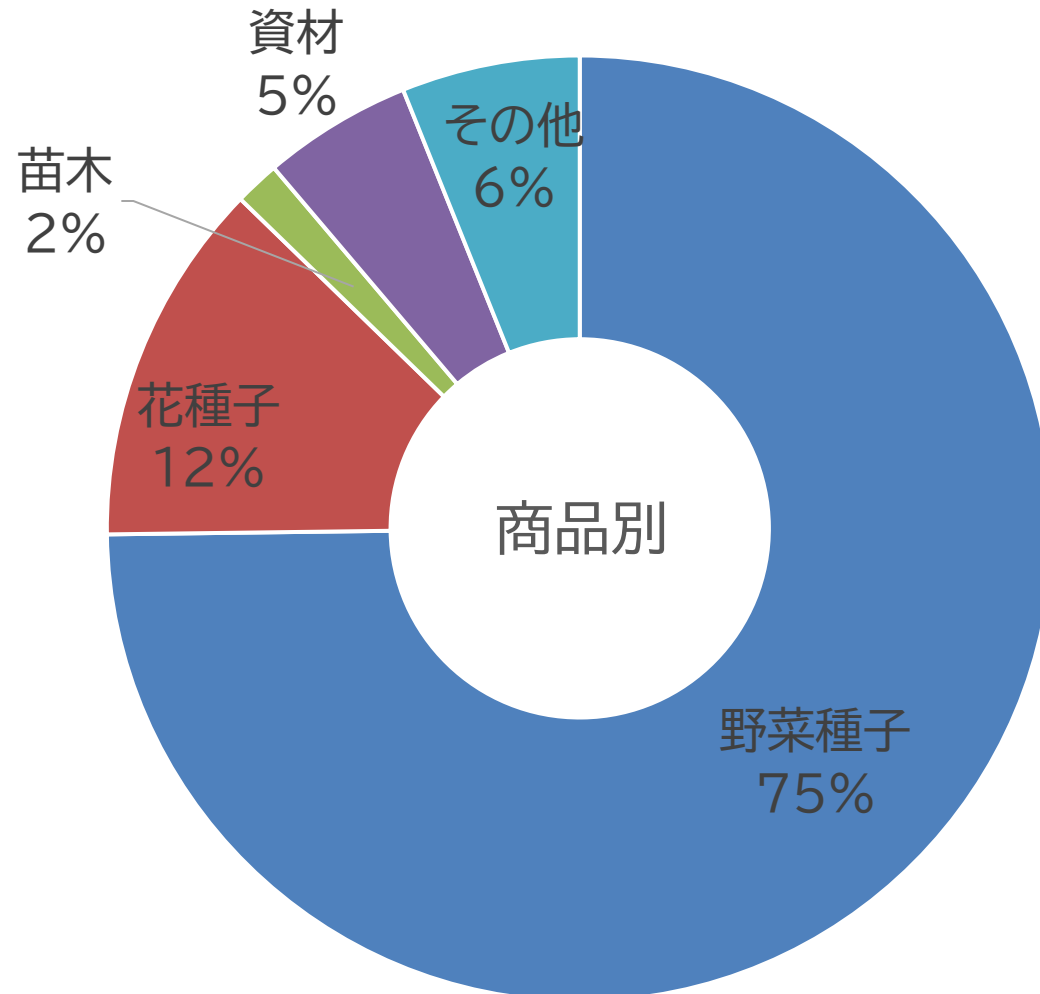
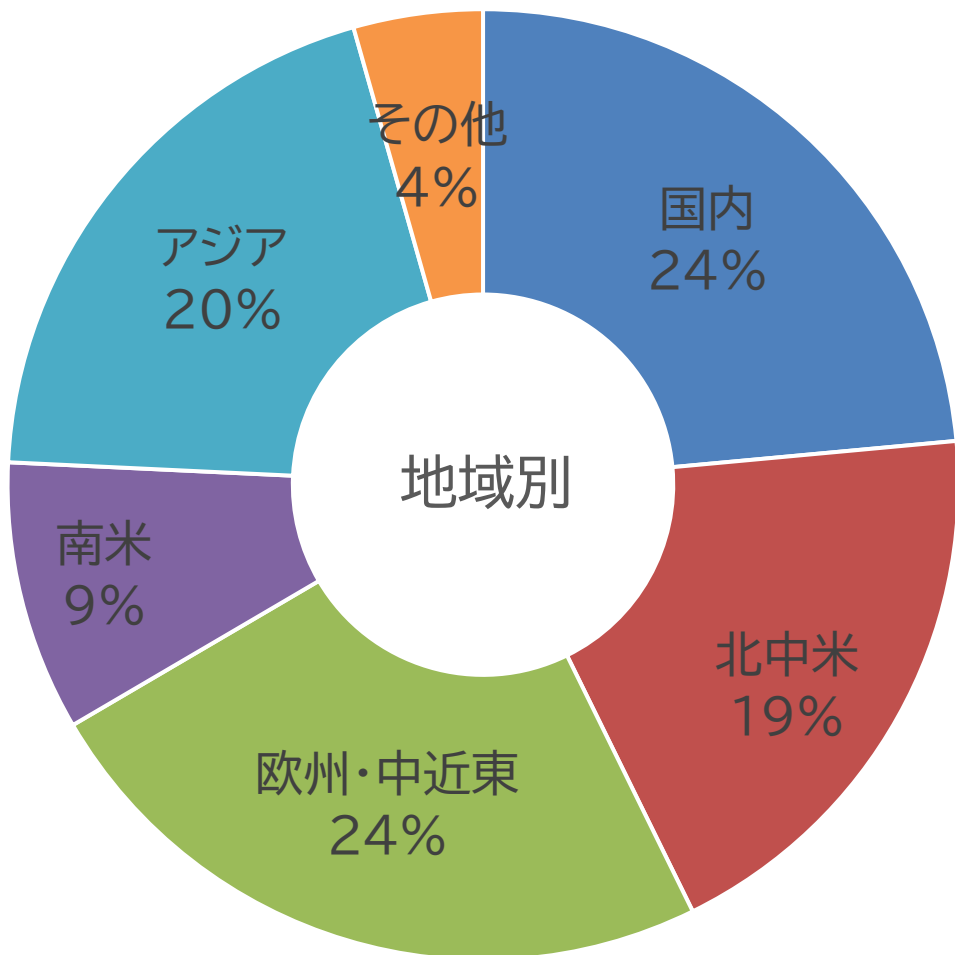
花は心の栄養、野菜は体の栄養

環境と社会、農園芸の持続的な発展を目指します

PASSI  N in Seed



4. 2025年5月期 中間期 資料集



2025年5月期 中間期 実績 外部売上高内訳②

品目別地域別売上高(内部取引消去後)の前期比増減

単位:百万円

(単位未満四捨五入)

	野菜	花	苗木	資材	その他	合計
北中米	△349	△141	△1	0	△40	△531
欧州・中近東	1,295	194	—	—	66	1,555
南米	883	7	—	—	3	893
アジア	△899	6	△3	△1	△13	△911
その他地域	347	6	—	—	△13	340
海外小計	1,277	72	△4	△1	3	1,346
国内小計	132	△15	△101	△48	160	106
合計	1,409	58	△105	△49	164	1,452

2025年5月期 実績 海外販売先別外部売上高(四半期推移)

(単位未満四捨五入)	1Q 6-8月	増減額	増減率 (%)	2Q 9-11月	増減額	増減率 (%)	3Q 12-2月	増減額	増減率 (%)	4Q 3-5月	増減額	増減率 (%)	累計	増減額	増減率 (%)
北中米(1,000US\$)	20,978	△923	△4.2%	35,910	△55	△0.2%							56,888	△978	△1.7%
欧州・中近東 (1,000EUR)	31,177	4,861	18.5%	32,056	4,361	15.7%							63,233	9,222	17.1%
南米(1,000BRL)	66,359	21,734	48.7%	81,629	25,310	44.9%							147,988	47,044	46.6%
アジア(100万円)	3,343	△333	△9.1%	5,060	△578	△10.3%							8,403	△911	△9.8%
うち韓国 (100万WON)	5,459	△1,065	△16.3%	7,280	333	4.8%							12,740	△732	△5.4%
うちインド (100万INR)	343	△38	△10.0%	451	8	1.7%							793	△30	△3.7%
その他(100万円) (アフリカ・オセアニア)	909	147	19.3%	952	193	25.4%							1,861	340	22.3%

2024年5月期 実績 海外販売先別外部売上高(四半期推移)

(単位未満四捨五入)	1Q 6-8月	増減額	増減率 (%)	2Q 9-11月	増減額	増減率 (%)	3Q 12-2月	増減額	増減率 (%)	4Q 3-5月	増減額	増減率 (%)	累計	増減額	増減率 (%)
北中米(1,000US\$)	21,901	△589	△2.6%	35,965	2,520	7.5%	35,865	2,078	6.1%	50,413	3,127	6.6%	144,145	7,134	5.2%
欧州・中近東 (1,000EUR)	26,316	284	1.1%	27,695	3,173	12.9%	24,355	471	2.0%	38,059	4,677	14.0%	116,425	8,605	8.0%
南米(1,000BRL)	44,625	469	1.1%	56,319	6,943	14.1%	48,321	8,858	22.4%	85,889	28,295	49.1%	235,153	44,564	23.4%
アジア(100万円)	3,676	670	22.3%	5,638	△61	△1.1%	2,510	89	3.7%	4,739	1,632	52.5%	16,563	2,330	16.4%
うち韓国 (100万WON)	6,524	△173	△2.6%	6,947	390	5.9%	4,347	89	2.1%	10,848	1,021	10.4%	28,667	1,327	4.9%
うちインド (100万INR)	381	41	11.9%	443	△36	△7.5%	214	34	18.9%	338	175	106.8%	1,376	214	18.4%
その他(100万円) (アフリカ・オセアニア)	762	127	20.1%	759	△79	△9.4%	1,044	268	34.5%	984	197	25.1%	3,549	513	16.9%

本プレゼンテーション資料には、株式会社サカタのタネの業績、戦略、事業計画などに関する将来的予測を示す記述および資料が記載されております。

これらの将来的予測に関する記述および資料は過去の事実ではなく、発表時点で入手可能な情報に基づき当社が判断した予測です。

また経済動向、他社との競争状況、為替レートなどの潜在的リスクや不確実な要因も含まれています。そのため、実際の業績、事業展開または財務状況は今後の経済動向、業界における競争、市場の需要、為替レート、そのほかの経済・社会・政治情勢などのさまざまな要因により記述されている将来予測とは大きく異なる結果となる可能性があることをご承知おきください。不確実性および変動要素全般に関する詳細については、有価証券報告書、決算短信などをご参照ください。



PASSI  N in Seed